

日本教材学会

The Japanese Association of Teaching and Learning Materials

通信

〒162-0831 東京都新宿区横寺町64-2 エデュイン神楽坂
TEL 03-5946-8717/FAX 03-3267-1047
URL <http://www.kyozaigakkai.jp>

目次

☆巻頭言	副会長 宮川 秀俊	1
☆第35回研究発表大会のご案内	実行委員長 小原 友行	2
☆事務局だより	事務局	4

〈巻頭言〉

教材の不易と流行を考える上で

宮川 秀俊

教材は、教科や校種で異なり、またその時々
の社会状況を反映している場合も多いよう
です。このような中で、私自身は教材の定義を、
「教育の目標を達成するために、その教育活動
を円滑に遂行し、教師と生徒の疎通を図る適切
かつ合理的なもの」として、教材研究を行って
きました。もちろん、時代が変わっても変わら
ない「不易」の教材と、時代と共に変わる「流
行」の教材が存在することは言うまでもなく、
それぞれに特徴や価値があります。

私の専門に係わっては、1970年代より欧米に
おける STS（科学・技術・社会）教育が紹介さ
れ、我が国でもその広がりが見られました。そこ
では、教科相互の関連性について学び、社会にお
ける科学や技術のあり方について自分なりの考
えを持つ能力の育成をめざした教材開発が展開
されました。

また、1990年代より米国の ITEA（国際技術
教育学会）を中心として、MST（数学・科学・技
術）教育の理念ならびに実践のための特長ある
教材が提案されました。そして、2000年代に入
って、世界的規模で STEM（科学・技術・工学・
数学）教育に関心が持たれ、様々な教材を用いて

の教育実践が示されています。

このように、時代の変遷に伴って、その時々
に要請される資質や能力の育成をめざして、効果
的かつ効率的な教材の検討がなされています。

さらに昨今、開発途上国の課題解決である
MDGs（ミレニアム開発目標、2000～2015年）
の後継として SDGs（持続可能な開発目標、2015
～2030年）が提唱され、すべての国・地域の共
通課題として取り組まれています。

このことは、一般社会と共に、学校教育の新教
育課程において、「持続可能な開発、持続可能な
社会の創り手の教育」（ESD）として、その教育
課程に反映されています。このため新たな教材
が提案され、その選択や配列の研究が行われ、も
ちろんここでも不易と流行の教材が存在し追究
されています。

本学会東海・近畿・北陸支部では、発足時（2016
年度）より、研究会のテーマを「持続可能な開発
のための教育（ESD）と教材」として掲げ、これ
に関する発表や講演が7年間行われ、支部とし
て一貫性のある教材研究を行ってまいりました。

以上のいろいろな場面に取り組む中で、井上ひ
さし氏の「難しいことを優しく、優しいことを深
く、深いことを面白く、面白いことを真面目に、
真面目なことを愉快地に、愉快なことはあくまで
も愉快地に」という言葉は、教材の不易と流行を考
える上で、示唆に富み参考になりました。

第35回研究発表大会のご案内

実行委員長 小原 友行 (福山大学)

◆大会実行委員長挨拶

日本教材学会は、福山大学を主催校とする第35回研究発表大会を、2023年10月21日(土)～22日(日)の2日間、2023年度中国・四国・九州支部研究発表大会との合同大会として、ZOOMによるオンラインで開催いたします。新型コロナウイルス感染症が落ち着いて来てはおりますが、諸般の準備の都合上、昨年度に引き続いてのオンライン開催となります。会員の皆様方のご理解・支援をお願いいたします。

ところで、およそ10～20年後の近未来を想定しますと、社会やメディアの急速な変化に伴い、学びの主体である子どもたちや学びの場である教室・学校・地域の環境だけでなく、学びの素材である教材そのものの質も大きく変容しているものと考えられます。では、どのように変わっていくのでしょうか、また変わらなければならないのでしょうか。これらの問いは、日本教材学会の会員一人ひとりにとっても大きな課題であると考えられます。

そこで、今回の研究発表大会においては、「近未来の教材を考える」をテーマとしたシンポジウムを企画いたしました。本シンポジウムでは、「教育ビジョン研究」「教材のデジタル化」「多文化共生教育」「個別最適な学び」の各視点から、テーマに迫っていただきます。また、分科会8会場で26本の自由研究発表や、2会場での研究プロジェクト発表もあります。ZOOMを通しての発表者と参加者との協働的対話というオンライン方式による研究発表大会ではありますが、会員の皆様方のご協力のもと、未来創造に向けた実りある大会となりますことを、心より期待しております。

日本教材学会第35回研究発表大会
実行委員長 小原 友行

◆開催概要

- 日程：2023年10月21日(土)～22日(日)
- 主催校：福山大学
- 開催方法：ZOOM方式

◆大会日程

- 10月21日(土)
 - ・10:00～11:55 自由研究発表① (第1～4分科会)
 - ・12:05～13:05 理事会
 - ・13:15～15:15 シンポジウム
- 10月22日(日)
 - ・10:00～11:25 自由研究発表② (第5～8分科会)
 - ・11:35～12:35 総会
 - ・12:45～14:15 研究プロジェクト発表 (第1～2会場)
 - ・14:25～14:55 中国・四国・九州支部総会

◆発表数

- 今大会の発表数は、次の通りです。
- ・自由研究発表：26件
 - ・研究プロジェクト発表：2件
 - ・シンポジウム：シンポジスト4名

◆シンポジウムの概要

- テーマ：「近未来の教材を考える」
- コーディネーター
 - ・小原 友行 (福山大学)
- シンポジスト
 - ・草原 和博 (広島大学)

「教材の民主化－作り、働きかけ、再構築される対象として－」
 - ・二田 貴広 (奈良女子大学附属中等教育学校)

「教材のデジタル化の視点から－翻って紙媒体の教材価値－」
 - ・南浦 涼介 (広島大学)

「ことばと文化の『のびしろ』と『異質さ』を重ね合う－『できなさ』を補う教材からの脱却に向けて－」
 - ・奈須 正裕 (上智大学)

「個別最適な学びにおける教材－環境による教育という教育方法の下で－」

◆研究プロジェクト発表

1. 学習への没入を促す「畏敬の念」を喚起する授業原理と方法－学習の道徳基盤の解明を目指して－
(プロジェクト代表：石川 勝彦)
2. 教材と教科教育の研究－データサイエンスの活用について考える－
(プロジェクト代表：藤井 大亮)

◆事前申し込み

※必ず、以下より事前申し込みを行ってください。学会ホームページからも申込できます。

受付期間 2023.9.21～2023.10.15

<https://forms.gle/pbQH1DPCXiVcwb62A>

ご入力いただく際、**特にメールアドレス**はよくご確認ください。ZOOMのリンクが送れなくなる場合があります。

また、kyozai-gakkai@nit.or.jpからのメールが受け取れるよう、迷惑メールフィルター等の設定をご確認ください。



◆ZOOMによる開催方法

【会場】

自由研究発表各分科会、各研究プロジェクト発表、シンポジウム、総会、(理事会)、それぞれにZOOMの会場が用意されます。各会場のZOOMアドレスは事前申し込みをいただいた方に、別途メールにて「ZOOM会場アドレス一覧表」にてお知らせ(事前申し込み受付期間終了後)いたします。10月12日を過ぎてもZOOMアドレスのご案内が届かない場合は、お手数ですが事務局(kyozai-gakkai@nit.or.jp)までご一報ください。

【参加上限】

各会場はZOOMに同時参加できる参加上限が定められています。

自由研究各分科会、各研究プロジェクト発表
→ 各100名
シンポジウム、総会 → 各300名

各会場の出入りは自由ですが、この上限を超えて同時に入室することはできません。ご承知おきください。

【発表者による事前チェック】

発表者による事前チェックは、発表会当日(21日および22日)の9時30分～10時の間に行います。発表者の方はこの時間にご接続いただくことで、画面共有や音声、操作など自由に事前チェックを行っていただくことができます。会場については、後日事務局よりZOOMのアドレスをお知らせしますので、ご参加予定の会場に接続してください。各会場には実行委員会のスタッフ(学生アルバイトを含みます)が常駐し、対応いたします。時間内であれば随時対応いたします。同時に複数来られた場合は、順番待ちをしていただくことがあります。

なお

- ・ 分科会第1会場と第5会場および研究プロジェクト第1会場、
- ・ 分科会第2会場と第6会場および研究プロジェクト第2会場、
- ・ 分科会第3会場と第7会場
- ・ 分科会第4会場と第8会場およびシンポジウムおよび総会について、事前チェック時の会場はそれぞれ同一となります。ご承知おきください。

【参加にあたっての注意事項】

- ・ 第35回研究発表大会はZOOMを用いてオンラインで開催いたします。ZOOMのインストールや基本操作方法は、インターネット上の解説情報等をご参照ください。ZOOMに関するお問い合わせは、大会実行委員会ならびに学会事務局ではお答えできませんのでご了承ください。
- ・ ZOOMを最新版に更新しておくことを推奨します。
- ・ 通信状況のよい環境や機器を利用してご参加ください。大会期間中、参加者ご自身に起因するトラブル(接続環境、操作ミス等)には大会事務局は責任を負えません。予めご了承ください。
- ・ 大会期間中、総会及びシンポジウム、研究発表

の録音・録画及びスクリーンショット等は、一切禁止といたします。

【自由研究発表、研究プロジェクト、シンポジウム、総会、(理事会)への参加方法】

①事務局(kyozai-gakkai@nit.or.jp)からメールが届きます。

自由研究発表各分科会、各研究プロジェクト発表、シンポジウム、総会、(理事会)、それぞれに ZOOM の会場が用意されます。各会場の ZOOM の URL は事前申し込みをいただいた方に、別途メールにてお知らせ(事前申し込み受付期間終了後)いたします。

②当日、参加したい会場の URL をクリックしてご参加ください。

なお、会議室の入室は、ミーティング ID とパスワードで参加することも可能です。URL をクリックしてもうまく入室できない場合は、ZOOM アプリからミーティング ID とパスワードを直接入力して参加してください。

【発表方法】

①ご発表される会場に ZOOM から入室してください。

②発表の順番が来ましたら、マイクとカメラを ON にしてください。

③「画面の共有」をクリックして、スライド等の画面を共有してください。

④司会の指示に従って、発表を開始してください。

※発表資料を共有する場合は、チャットに貼り付けてください。

【疑等における発言方法】

① 「リアクション」、「手を挙げる」をクリックしてください。

② 司会の指示に従って、マイクとカメラを ON にしてください。

③ 質疑が終了しましたら、再度マイクとカメラを OFF にしてください。

事務局だより

事務局

◆事務局より

この度事務局長を拝命しました、細川太輔と申します。さらに活発な学会になるよう精一杯務めさせていただきます。今多勝代事務局員とともに学会運営を支えて参ります。会員の皆さま、どうぞよろしくお願いたします。

◆新入会員のご紹介

下記「議事報告」に記載しました 2023 年度第 3 回常任理事会まで承認されました、新入会員の皆さまです。ご所属は承認時のものとなります。

氏名	所属	専門等
安達 心	筑波大学 大学院	教育方法学
長濱 裕也	東京理科大学 大学院	理科 (物理教育)
横山 美明	星槎大学	小学校家庭科
三友 玲子	埼玉純真短期 大学	幼児教育
麻生 達也	横浜国立大学 教育学部 附属 横浜小学校	国語 (物語文)
西村幸一郎	九州大谷短期 大学	美術
坂井 昂	北九州市立大学	情報・ 外国語
前畑 遥哉	北九州市立大学	情報・ 外国語
横川 尚哉	北九州市立大学	情報・ 外国語
中村 春菜	早稲田大学 大学院	環境・ 人間関係
安田真紀子	フェリシア こども短期大学	幼児教育

◆議事報告

◇2023年第1回常任理事会

(日本教材学会会議室)

日程:2023年5月13日(土)

I). 報告事項

- (1) 日本教材学会第35回研究発表大会第1次案内の件
- (2) 第35回研究発表大会研究発表者募集のお知らせ
- (3) 2023年度決算報告の件(2023年度特別会計報告含む)

II). 協議事項

- (1) 新規入会会員承認の件→承認された。
- (2) 日本教材学会会費未納者への対応の件→催促し、それでもお返事がない場合は会員資格喪失とするというメールを送る。
- (3) 第35回総会日程変更の件
(10月21日⇒22日→了承された。
- (4) 支部細則見直しの件→支部会計について、会則等検討委員会に検討してもらうこととした。
- (5) 事務局長手当の件→4月に遡って月5万円とすることが了承された。
- (6) 学会HPの件→次の常任理事会で提案することとなった。

◇2023年第2回常任理事会

(日本教材学会会議室)

日程:2023年7月15日(土)ZOOMにてのWEB会議

I). 報告事項

- (1) 日本教材学会第35回研究発表大会の件(自由研究発表会の申込状況等)

II). 協議事項

- (1) 研究企画委員会研究プロジェクトの公募期日について→理事会で審議していくことが了承された。
- (2) 日本教材学会「年度の変更・見直し」について→今後会則等検討委員会で審議し、次回の常任理事会でどのような手順で移行するか提案することとなった。
- (3) 日本教材学会ホームページ改修の件について→進めていくことが了承された。
- (4) 日本教材学会新規入会・大会会員承認の件→承認された。

◇2023年第3回常任理事会

(日本教材学会会議室)

日程:2023年9月2日(土)

ZOOMにてのWEB会議

I). 報告事項

- (1) 日本教材学会第35回研究発表大会の件(自由研究発表会の申込状況等)・

II). 協議事項

- (1) 日本教材学会「年度の変更・見直し」について→春に総会を行うことが承認された。次回の常任理事会で細部を再提案されることになった。
- (2) 日本教材学会「支部細則」の検討→以下のように追加されることが承認された。
第8条(新設)支部会は、年度終了後に開かれる理事会において、当該年度の運営報告及び会計報告を行うものとする。
理事会で承認、総会で報告がなされることが確認された。
- (3) 日本教材学会新規入会・大会会員承認の件→承認された。

☆編集後記☆

「日本教材学会通信」49号をお届けします。今号では第35回研究発表大会の案内を掲載しています。開催概要とZOOMによる開催方法を参考にして、ご参加をお願いいたします。今回のシンポジウムは「近未来の教材を考える」をテーマとしてさまざまな視点から教材の在り方に迫ります。会員の皆様の研究活動を深める契機となれば幸いです。(三小田美穂子)